

第2学年4組国語科書写学習指導案

千葉市立花見川第一中学校
梶山 貴子

1. 単元名 行書と仮名を調和させて書こう「文字の大きさと配列」

2. 単元について

新学習指導要領において、書写は今までの「言語事項」から新たに[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]に位置づけられた。この位置付けには、言葉の基礎となる書写が、国語による理解力・表現力を形成するための基礎のひとつであり、言語活動の充実と関連の深い内容を有し、国語の目標に示されている「伝え合う力」をいっそう高めていく基盤となることが求められている。もうひとつは、今までの主たる学習事項は、文字を正しく整えて速く書く、そしてその力を学習活動や日常生活に生かすという内容であったが、今回の改訂では、文字を書くことを伝統や文化としてとらえる視点が新たに加わったことである。

これからは、書写とは「言葉(文字)を書くことについて深く考える活動」を重視し、「書写とともに学ぶ」姿勢がいっそう大切となる。言葉(文字)を書くことをとおして思考・判断・表現していくなかで、自ら学び、自ら考える力につながる「生きる力」「伝え合う力」を育むことである。他者に対してアピールしたりプレゼンテーションしたりする、「拓く・広げる」(人間関係力を高める)力～コミュニケーション力～の育成を目指す活動とも捉えられる。手書き自体が大切な文化であるということに視点をあてて、「書写する(書く)」ことの大切さを教えるとともに、「書くこと」をとおして何を伝えるか、「書くこと」がいかなる役割を担ってきたかを教えることが強く求められている。

第2学年の書写学習は、「行書に調和する仮名の基礎的・基本的な内容の定着」を目指している。第1学年の「漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと」から発展したものとなっている。行書に調和する仮名の指導として、小学校第5・6学年で学習してきた「仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること」はもとより、筆圧などに注意すること、穂先の動きと点画のつながりなど、毛筆の特性を生かした筆使いや行書の特徴について、文字文化という視点から確実な習得が求められている。このことは、硬筆にも生かしていきたい指導内容である。中学校の中堅学年となる2年生は中学校生活にも慣れてくる頃である。学習の難易度もさらに上がり、板書も多くなり、ノートをより早く整えて書くことを求められる。

本単元は、既習事項である行書の基礎的な書き方や筆脈、調和をさせて書く方法を学習する。生徒は行書の特徴を理解し、その特徴を生かしながら表現することに十分に慣れていない。そこで、本単元の最初に行書についての導入の学習を行う。行書の特徴(変化・連続・省略)と筆脈を、「社説」「雲海」「開花」の教科書課題を通して学ぶ。それから、国語の授業で学習した「枕草子」の「春」の部分の小筆で書いて、行書と仮名の調和や配列のしかたを理解する。

本時は、班で(5～6人の生活班・6班)で国語の教科書に掲載されている詩「明日(6連構成)」を班で分担し、それぞれの班で模造紙一枚に合同制作する。制作を行うにあたり、紙面における構成・用具・分担などの話し合いが必要になる。紙面に対する文字の大きさや位置、余白の取り方や配列を考えて調和よく書くことについて見つめる機会とし、日常生活での硬筆に役立つ姿勢を養いたい。また、学級の仲間と話し合い、書くことを通して、文字の大きさや配列・調和について互いに考える場を設定し、他者から学ぶ態度を育てたいと考える。

3. 生徒の実態（男子 19 名、女子 16 名、合計 35 名）

クラス全体の雰囲気は落ち着きつつも、質問に積極的に反応をする。自分の考えや思いを書くことにはやや時間がかかるが、助言を出すと、表現することができる。

年度始めの授業で、平仮名・片仮名の硬筆練習を行った。空書きで筆順を確認した際に「や」と「も」で筆順の違いが多く見られた。また、結びの形や「む」などの字形が整えて書けてない生徒も見られた。そのため、仮名のもととなる字母を確認しながら、練習するようにアドバイスした。

小筆を使った、漢字と仮名の調和についても学習した。漢字と仮名はもちろん、行の中心や余白・バランスなど意識していることはあるが、小筆を使った作業に慣れていないため、自分が書こうとするイメージと実際が異なってしまう（以下作品の実態参照）

書写の授業は、昨年度は硬筆練習帳を中心にとりくみ、書き初めは楷書で制作した。したがって、毛筆での書写の学習は十分に行っていないのが現状である。

アンケート調査から（35 人欠席 1 人）

1. 毛筆は好きか。

好き…14 人 嫌い…20 人

理由

《好き》・書くことが楽しい・好きだから。・習っているから。・心が落ち着くから。

・書けないけど書いているのを見るとかっこいいと思うから。

・(字が)きれいな人が書くと、カッコいいから。・かっこいいイメージ。

・ふだんやらないから。・書くのは難しいけど楽しいから。・ふつうにシャーペンで書くよりは好き。

《嫌い》

・準備、片付けが面倒くさいから・墨で汚くなることがあるから。

・筆で書くのは難しいから、または書きにくいから。・うまい字はすごいと思う

・きれいに書けないから。・自分の字がきたないから。・いつもとは違うから書きにくい。

・ペンとか鉛筆とかを使えば、日常生活に困ることはない。・思うとおりに行かないから。

・毛筆は必然的に少しだけていねいに書かないといけないから。(普段の字で書けない)

・文字の太い字や細い字を書くのが難しい。

2. 行書のイメージは(第一印象)は？

・和風・かっこいい・書けたらかっこいい・すてき・一筆書きのようなもの・楷書より難しいもの・なんかうまく見えるイメージ・芸術的というか、かっこいい！！・ちょっとかっこよくなって、きれいに見えるイメージ・古風・書きやすいようなイメージ・長い・すばやく書けそう・すらすら書くような・すごい・楷書のくずした感じ

・難しい・何の字かよくわからない・きたない字・書きにくそう・どうかけばいいかわからなかったけど、すごいと思った・あんなの習うってめんどくさい・雑

3. 普段文字をかくとき、気をつけているのはどのようなことですか。

・漢字を少し大きめに書く。・早くきれいに書く。・字のバランス・大きさ、筆順

・とめ・はね・はらいを気を付ける。・見やすく書く。・誰が見ても読みやすい字。

・姿勢・筆記用具の持ち方。・紙を曲げないで書く。・背筋を伸ばして、足をちゃんとつける。

・ノートなどは見やすいように書く。・ななめにならないように書く。・できる限り速くする。

・できるだけうまく書く。

・特にない 4 人

4. 行書を学んだら、日常のどんな場面に生かしたいか。

- ・ノート・葉書、手紙・急いで書くとき・人の話をメモするとき・掲示物・レポート・名前
- ・サイン・友達に手紙を書くとき・授業

5. 漢字仮名交じりの文章を書こうとするとき(書いている)とき、どのようなことに気を付けていますか。

- ・漢字と仮名の調和・字形・字や全体のバランス・字間・字が曲がらないように・とめ、はね、はらい・大きさ・間違えずに読める字・教科書を見ながら真似をする

6. 書き初め以外で大きな作品を制作したことがありますか。はい2人。

- ・武道館の席書大会、校内廊下の詩(卒業生に向けて)、学級目標・七夕に色紙

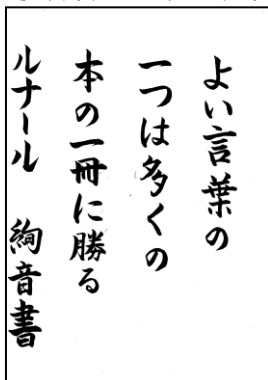
7. 利き手は右利きか・左利きか。

硬筆左利き→4人 毛筆左利き→1人

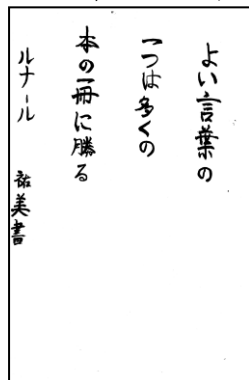
○作品から

教科書P18の課題にとりくんだ。行書で書かれているもののため、慣れていない生徒もいると考えて、自分の書いてみたい書体を選んで書くように助言した。行書は10数名、楷書は半数以上であった。習字教室に通っている生徒は2名だが、書いてみたいと自分から進んで書く生徒もいた。

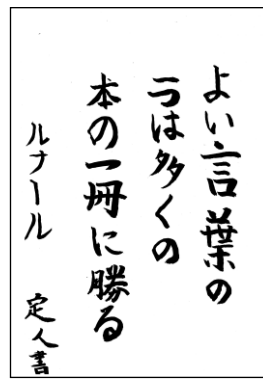
教科書のように行書で書いた生徒 12名



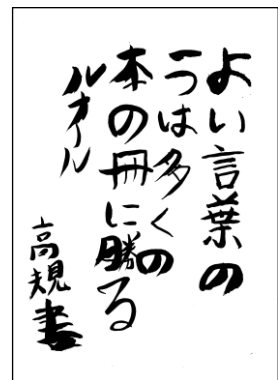
- ・字は整っているが、紙面に対し文字が大きい。(行書の作品全体から)



- ・紙面に対して文字が小さく細くなっている。



- ・行頭は整っているが下がやや詰まっている。

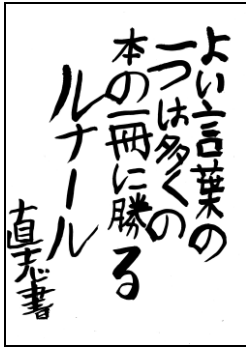


- ・字が大きいため行間が詰まっている。

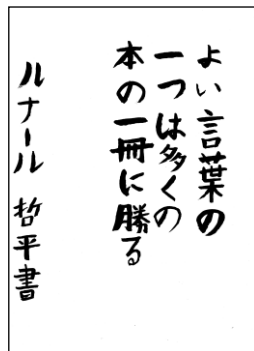
- ・行間が詰まっている。 2名
- ・紙面に対して、文字を大きく書いている。 4名
- ・行の中心が曲がってしまっている。 1名

- ・下の余白が詰まっている。 3名
- ・文字を小さく書いている。 1名
- ・漢字より平仮名が大きくなっている。 1名

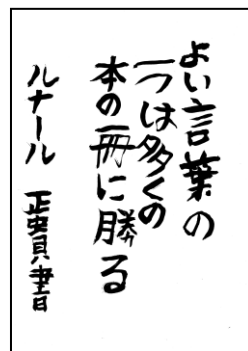
楷書で書いた生徒 21名



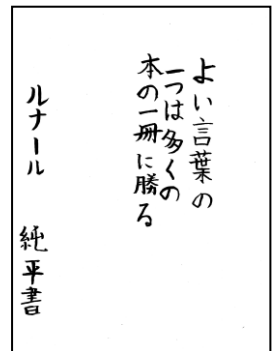
・文字が大きいため、行間がほぼない。



・行間と左側の余白が詰まっている。



・行の中心が取れていない。



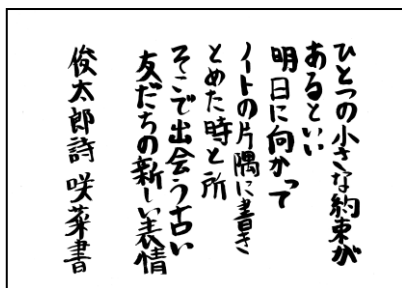
・紙面に対し文字が小さく、余白が目立つ。

(楷書の作品全体から)

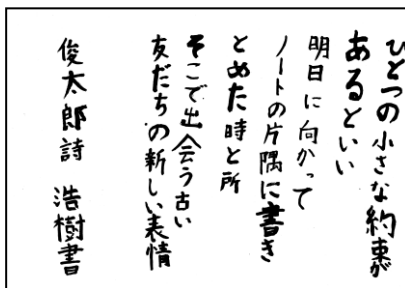
- ・紙面に対して、字が大きい。6名
- ・紙面に対して字が小さい。2名
- ・行間が詰まっている。5名
- ・行の中心がずれている。1名
- ・字の大きさが整っていない。2名
- ・余白と字の大きさのバランスがとれていない。2名

全体的に紙面に対して、字を大きく書いている生徒が多い。上の余白・行頭については、教科書をよく参考に行っているため、大方の生徒は揃えて書いている。しかし、下の余白が詰まっている。

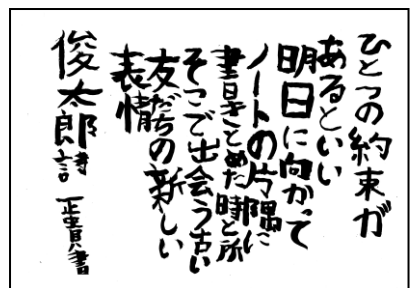
国語の教科書に掲載してある詩「明日」の一連めについて楷書や行書で書くか、構成を各自で考えて書くように促した。紙面に対する字の大きさ、行間の取り方、書き方すべてについて個人で考えて書く、創作作業である。ほとんどの生徒が紙を折らずに行をそろえて書くことができている。また、あえて行を全体的に傾けている生徒もいる。書き慣れていない小筆を持っているためか、緊張感を持って書いている作品が多い。



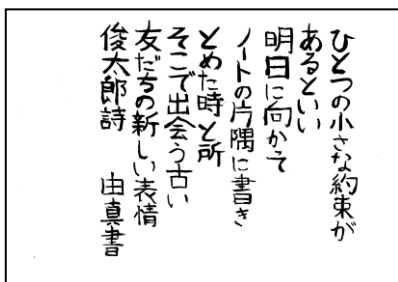
・行の中心は取れているが、下の余白が詰まっている。



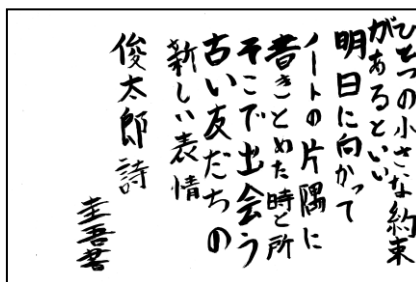
・行の中心が曲がっている。字の大きさもばらばらである。



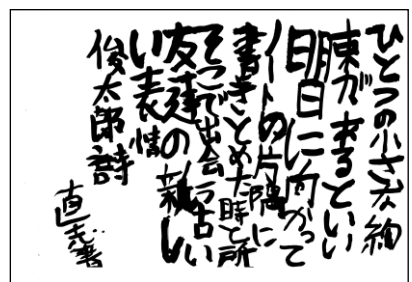
・字の大きさ、行の中心などがばらばらである。



・字の大きさと行の中心は揃っているが、行間の余白が十分でない。



・行頭が傾き、全体の字の大きさも大小さまざまである。



・文字も大きく、字の大きさもばらばらである。また、十分な余白がない。

(作品全体から)

- ・行間が詰まっている。7名
- ・紙面に対して文字が大きい。6名
- ・字が大きい。6名
- ・上下の余白が詰まっている。14名
- ・左右の余白が詰まっている。3名
- ・行の中心が曲がっている。6名
- ・字の形が整っていない。3名

毛筆に対して、嫌いを意識する生徒がクラスの半数以上である。習字教室に通う生徒は2人いるが、毛筆を好きとする生徒とそうでない生徒の意識の差が大きい。毛筆が好きだという生徒の中でも、書くのは得意ではないが、上手な字を見るのは好きだという生徒もいる。嫌いだとする生徒の中には、用具の準備片付けを面倒とすることと、自分の文字に対する自信のなさを理由に挙げている。この授業を通して、行書と仮名の調和を日常に生かすことへのきっかけとし、学級の仲間と話し合い、制作することで他者から学ぶ態度を養いたいと考える。

4. 単元の目標

- ・行書と仮名を調和させて書こうとする。
- ・学習したことを、日常のさまざまな書式に生かしていこうとする。

5. 指導計画（10時間扱い）

時数	学習内容	時間配分	教材
1	・行書の特徴を理解し、自分の氏名の行書を書く。	1時間	教科書
2	・「しめすへん」と「ごんべん」の省略と点画の連続を理解し、字形を整えて書くことができる。	1時間	「社説」
3	・「あめかんむり」と「さんずい」の省略と点画の連続を理解し、字形を整えて書くことができる。	1時間	「雲海」
4	・「もんがまえ」の省略と「くさかんむり」の筆順の変化を理解し、字形を整えて書くことができる。	1時間	「開花」
5	・2～4時間目で学んだ行書の特徴を理解し、自分で課題を選択して書くことができる。	1時間	2～4時の課題を選択
6	・行書と仮名の調和と配列を理解して書くことができる。	1時間	「枕草子 春」 小筆
7	・国語の教科書「明日」を班に分担し、半紙に練習する。 (草稿制作)	1時間	半紙 小筆
8・ 9	・模造紙大の紙に文字の大きさと配列を考えて書くことができる。(下書き)	2時間	新聞紙・模造紙
10	・模造紙に文字の大きさと配列を考えて書くことができる。(清書)	1時間 (本時)	模造紙

6. 本時の学習

(1) 目標

- ・紙面全体の調和を考えて、班全員で協力して作品を仕上ることができる。
(関心・意欲・態度)
- ・行書と仮名の配列と調和を意識し、文字の大きさや配列を理解して書くことができる。
(知識・理解・技能)

(2) 本時の学習で検証する仮説

【仮説2】児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

① 行書と仮名を調和させた参考例を用意する。

教科書の課題を用いて、行書の学習を実施した。行書の特徴や筆脈をおおむね理解して書くことができるようになってきた。しかし、手本をなしに自分で考えて行書を書くことができるとは言い難い。そこで、行書と仮名に調和した参考例を提示すれば、行書と仮名の調和を意識して書くことに、それぞれが主体的に取り組むことができるであろうと考える。

② 模造紙大の作品例を用意し、意欲を喚起する。

- ・範書 ほかの詩の題材を用いて、大筆で書いた例・小筆で書いた例を提示する。それぞれの例をもとに、生徒たちで班のねらいに合った筆を選択し、積極的に取り組むことができるであろうと考える。

- ・他クラスの作品・同じ班の生徒の作品

同じ課題を他3クラスで実施した。廊下に掲示し鑑賞することで、同級生がどのような大きさ・配列で書いているか・自分たちだったらどのように書こうとすることを考えることができるのではないかとと思われる。

前々時に本時に書く際の草稿を作成した。それを互いに見合うことで、よく書けているものに刺激を受けるであろう。また、班の仲間どうして話し合い、模造紙にどのような配列・大きさで書こうとするのかを主体的に考えて取り組むことができるのではないかと考える。

7. 展開

過程	学習活動と内容	教師の指導・支援
つかむ 10	・本時の学習内容を確認する。	○前時に学習した課題の清書を行うことを確認し、目的を持って学習で取り組めるようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">文字の大きさや配列を意識して、班で「明日」を書こう。</div> ・前時書いたものを見て、自分の書く言葉と全体で意識することを班の仲間と確認する。 ・用紙に対する字の大きさ・行の中心・行間の余白・行書の筆使い・字形等	○それぞれの班で目標を確認して取り組むように助言する。 ・前時に書いた作品から目標を理解して、意欲的に取り組もうとしているか。(関・意)

<p>気づく 30</p> <p>まとめ 10</p>	<p>・模造紙を用いて、班の計画にそって書き始める。</p> <p>・各班で書いた作品を見合い、評価する。 →廊下に掲示する。</p> <p>・後片付けをする ・次回の学習の内容を確認する。</p>	<p>○用具・用紙の準備をするよう指示する。</p> <p>・練習の成果を生かして書けたか。(技)</p> <p>・行書に調和する仮名の書き方を理解できたか。(知・理)</p> <p>●自分の書く番ではなく、することが見つけられない。</p> <p>*書いている人の筆の動きや紙全体を見るよう促す→チェックシートをつける。</p> <p>●作業が遅い班</p> <p>*書く作業が遅いことが予想される班については、準備の段階から、一緒に段取りをし、進め方の助言をするようにする。</p> <p>○他の班の作品を鑑賞し、よいところに気づけるように。</p> <p>・他班の作品の良いところを見つけられたか。(関・意・態)</p>
-------------------------------------	---	---